

講師資格認定オーディション 筆記試験対策

～オルガン科R5 / ピアノ科R5～

2010年春に行なわれた講師資格認定オーディションの筆記課題について、試験結果を分析し、正答率の低かった問題を中心に解説していきます。この解説を参考にして問題のポイントを押さえ、次回の受験の準備にお役立てください。各科の掲載ページは、オルガン科R5とピアノ科R5がP.7～8、オルガン科R4～R2およびピアノ科R4～R2がP.9～15です。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科 [R5] ■ ■ ■ ■ ■

R5では、音楽の一般知識や楽典の基礎的な問題に加えて、オルガンの機能やローランド・ミュージック・スクールの音楽教育システムに関する問題が出題されます。

この春実施されたオーディションでは、コードネームに関する問題やミュージック・アトリエの機能、ローランド・ミュージック・スクー

ルの音楽教育システムに関する問題で特に正答率が低かったようです。ミュージック・アトリエの機能については、今一度基本をしっかりとして押さえておくことはもちろんですが、普段からさまざまな機能を使って演奏することを楽しみましょう。そうすれば自然と身に付いていくことでしょう。

IV. (1) 次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 22. ミュージック・アトリエのダンパー・ペダルはピアノ音色にのみ効果がかかる。

正解：×

ダンパー・ペダルと言え、通常はピアノに備わっているペダルの1つですが、ミュージック・アトリエではピアノ以外のさまざまな楽器の音色に対して使用することができます。例えば、オルガンやストリ

ングスなどの持続音系の音色で使用すると、ペダルを踏んでいる間はホールド機能と同じように音が鳴り続けます。

V. (1) 次の楽譜の□部分に適したコードを①～⑧より選び、番号で答えなさい。(重複可)

Swing

D6 (31) Em7 (32) D6 (33) G6 (34) (35) D6

① Bm7 ② F7 ③ D#m7 ④ A7 ⑤ C7 ⑥ G7 ⑦ D7 ⑧ E7

正解：(設問 31) ① Bm7 (設問 32) ④ A7 (設問 33) ⑦ D7 (設問 34) ⑧ E7 (設問 35) ④ A7

指示された箇所に適したコードネームを答える問題です。このような問題では、その小節内のメロディーの音や前後のコードの流れから、当てはまるコードを導き出すのが原則です。

設問 33 では、メロディーの音のうち、拍上にある E 音、C 音に注目します。これらの音が両方ともぶつかからないのは、選択肢のうち⑤ C7と⑦ D7のみです。どちらもドミナント・コードですので、次にどのようなコードへ進んでいるかを確認してみましょう。次の小節は G6 ですから、G6 へ進むドミナント、つまり⑦ D7 が最適なコードとなり

ます。設問 34 では、メロディーの音と合っているコードを導き出します。強拍にある G# 音に合うコードとしては、⑧ E7 が考えられます。最後の A 音は次のコードへの先取音と解釈できるため、⑧ E7 が正解となります。

設問 35 では、譜例の 8 小節目でメロディーが終止していることに注目しましょう。D6 へ進むドミナント・コードを考えると、④ A7 が最も有力です。メロディーの音のうち、F# 音は 13th、D 音は先取音として解釈できるため、正解は④ A7 となります。

VI. (2) 次の文章について、正しいものには○を、そうでないものには×で答えなさい。

設問 44. ローランドオルガン・ミュージックフェスティバルは、ローランド・ミュージック・スクールの会員であれば誰でも参加することができる。

正解：○

設問 45. 「はじめてのアトリエ」は、幼児科「アトリエランド」の主教本である。

正解：×

ローランドオルガン・ミュージックフェスティバルは、ローランド・ミュージック・スクール会員のためのオルガンの祭典であり、ローランド・ミュージック・スクール在籍生徒(メンバーズクラブ会員)、講師、および講習生のみ参加することができます。一方、ローランドファンタスティック・ピアノコンクールは一般の方も参加できますので、両者を

混同しないようにしましょう。また、「はじめてのアトリエ」は、2009年に発売されたオルガン科ベーシックコースの主教本です。ローランド・ミュージック・スクールのオリジナル教本については、一通り押さえておきましょう。

ピアノ科【R5】

R5では、音楽の一般知識を問う問題、楽典の基礎的な問題に加えて、指導法に関する問題やローランド・ミュージック・スクールのシステムについての問題が出題されます。

今回、比較的解答率の低かった問題は、和音聴取、音楽史や音楽形式に関する問題、さらにはローランド・ミュージック・スクールの

システムに関する問題でした。中でも、和音聴取においては2声間の音程が8度以上開いている和音を聴き取る問題で不正解が多く見受けられましたので、特に注意して取り組みましょう。また、音楽の形式については、二部形式、三部形式、複合三部形式、ソナタ形式など、まずは主な形式をしっかりと理解することから始めてください。

Ⅲ. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Allegretto

設問 20. この楽譜における曲の形式を①～④より選び、番号で答えなさい。

- ①二部形式
- ②三部形式
- ③複合二部形式
- ④ソナタ形式

正解：②三部形式

譜面を一見したところ、前半の8小節間とそれ以降の8小節間に分かれています。そのためか、「二部形式」という誤った解答が多く見受けられました。「fine」、「D.C. al Fine」という指定を見落とさないよう

に注意しましょう。この曲は、前半の8小節間をA、後半の8小節間をBとすると、A→B→Aという演奏順となりますので、②「三部形式」となります。

Ⅳ. (1) 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

設問 21. (21) 中の、e音に付けられている装飾記号の名称を①～④より選び、番号で答えなさい。

- ①トリル
- ②モルデント
- ③ターン
- ④ブラルトリラー

正解：④ブラルトリラー

装飾記号の名称を答える問題です。記号の意味はわかっても、その名称を知らなければ実際に指導する際に不便なことも多いでしょう。特にブラルトリラーとトリルは今日でもさまざまなジャンルの音

楽に幅広く使用されています。今一度しっかりと復習しておきましょう。

例：) トリル モルデント ターン ブラルトリラー

Ⅳ. (3) 次の文章の中の□にあてはまる言葉をそれぞれ①～③より選び、番号で答えなさい。

設問 27. ベートーヴェンが作曲した交響曲第(27)番は、「英雄」と名付けられた。

- ① 3
- ② 5
- ③ 7

正解：① 3

ベートーヴェンの交響曲と言えば第5番「運命」や、「第九」で定着している第9番、また、牧歌的な旋律から始まる第6番「田園」などがあります。副題の付いた楽曲は、交響曲のほか、さまざまなジャンル

にわたって存在しますが、作曲者自身によって付けられたもの、後に慣用的に呼ばれるようになったものなどさまざまあります。有名な副題については、今一度確認しておきましょう。

Ⅵ. (2) 次の文章について、正しいものには○を、そうでないものには×で答えなさい。

設問 43. クラシックピアノコース修了後はアドバンスコースに進むことができる。

正解：○

設問 45. ローランド ファンタスティック・ピアノコンクールは、ローランド・ミュージック・スクールの音楽教室の会員であることが参加の条件である。

正解：×

ローランド・ミュージック・スクールの音楽教育システムを把握し、生徒や保護者からの質問に答えられるようにしておくことは信頼関係を築くうえでとても大切なことです。コンクールやオーディションに関することはもちろん、各コースの内容や、講師資格の指導範囲、有効期間など、改めてよく確認しておきましょう。設問 43. の「クラシックピアノコース」は、英国王立音楽検定編纂の教本を使用して基礎的なクラシックピアノを学ぶ大

人のためのコースです。修了後はアドバンスコースに進むことが可能です。また、設問 45. の「ローランド ファンタスティック・ピアノコンクール」は非会員の方でも参加することができます。同じコンクールでも、「ローランドオルガン・ミュージックフェスティバル」の方は、ローランド・ミュージック・スクール在籍生徒(メンバーズクラブ会員)、講師、および講習生にのみ参加資格が与えられていますので、両者を混同しないようにしましょう。

講師資格認定オーディション 筆記試験対策

～オルガン科R4-R2 / ピアノ科R4-R2～

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科 [R4] ■ ■ ■ ■ ■

実際の音楽を聴いて答える問題は、R5では編成、ジャンル、様式を選択するものでしたが、R4では楽器名を選択する問題となります。このような問題では、比較的音色が似ているヴァイオリン属

の楽器や、金管楽器同士の聴き分けについて正答率の低い傾向が見られます。それぞれの楽器の特徴や個性などをよく知っておくようにしましょう。

II. (3) 和音聴取

設問 8. これから演奏する音と、次の楽譜とをくらべ、各小節内のすべての和音が正しいものには○を、1音でも異なっているものには×を記入しなさい。(4回演奏)

聴音問題の和音聴取では、各声部ごとに聴き取っていく方法をおすすめします。まず比較的聴き取りやすい両外声(ソプラノ、バス)から聴き取り、選択肢を絞り込みます。その後に内声を聴いて判断し

ますが、内声部をうまく聴き取るコツとしては、先に聴き取った外声との音程を考え、それをもとに導き出すのもひとつの方法です。ご自身に合った方法を見つけてみましょう。

III. ◎次の用語の意味を①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 15. enharmonic

①異名同音 ②ブロック奏 ③属調 ④和音記号

正解：①異名同音

enharmonic(エンハーモニック)は、日本語で異名同音のことを指しており、C#音とD♭音のように、音名が異なっても実際に演奏される音が

同じ音のことです。この異名同音の原理を利用して遠隔調に転調する「エンハーモニック転調」という言葉も関連して覚えておくとうまいでしょう。

VI. (2) 次の文章について、正しいものには○を、そうでないものには×で答えなさい。

設問 44. オルガン科講師資格 R3 の認定には、オルガン科アドバンスコース演奏オーディション 5 級以上の保有が条件である。

正解：○

オルガン科では講師資格認定条件として、資格ごとにアドバンスコース演奏オーディションの合格が必要です(R5=8級、R4=6級、R3=5級、R2=4級)。また、R1の講師資格認定オーディションの受

験にはアドバンスコース演奏オーディション3級以上を保有していることが条件になっていますので、合わせて確認しておきましょう。

■ ■ ■ ■ ■ オルガン科 [R3] ■ ■ ■ ■ ■

R3では、聴音課題、筆記課題ともに記述形式の問題が加わりま

実際に五線に記す問題ではあいまいな位置に書かれた音符や臨時記号などが多く見受けられました。読み取ることができない場合は減点につながりますので、なるべく丁寧に書くことを心がけてください。

II. (2) リズム聴取

設問 7. 4分の4拍子、6小節(5回演奏)

聴音問題のリズム聴取では、まず各小節の頭の音を慎重に聴き取ることがポイントです。小節の頭を聴き逃してしまうと、以降すべての小節で拍がズレてしまい、大きな減点となってしまいますので十分に注意してください。これを避けるためには、まず最初に各小節の1拍

目だけを書き取ってしまうという方法もあります。小節をまたぐタイやシンクレーションのリズムに惑わされないよう、常に心の中で拍をしっかりと数えましょう。

<聴音(旋律、リズム、和音聴取)のポイント>

1.) 拍をしっかりと刻む

例えば3拍子の場合は1拍目を中指、2拍目を人差し指、3拍目を親指で、4拍子の場合は1拍目を薬指から始めて、机などを叩きながら正確に拍をカウントします。

2.) 各小節の頭の音から聴き取る

1回目の聴取は各小節の頭の音以外は無視するくらいの気持ちで、まずは各小節の頭(音符or休符)に集中します。発音されなかった場合は、休符なのか、小節線をまたいだタイなのかを見極めましょう。

3.) 各小節の頭の音が取れたら、細部を埋めていく

各小節の頭の音を意識しながら、まずは音の高さのみを聴き取ります。続いて、各拍の頭にあたる音を探し、リズムを判断していきます。

4.) 空白部分がないようにする

楽譜中にたとえ1拍分でも空白があると不完全小節と判断され、減点対象となります。できる限り空白部分がないように埋めておきましょう。

Ⅲ. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

設問 9. この楽譜はクラリネット五重奏曲のスコアです。上から3段目のパートは何の楽器で演奏されますか。

楽器名を①～④より選び、番号で答えなさい。

- ①オーボエ ②ヴァイオリン ③ヴィオラ ④チェロ

正解：②ヴァイオリン

設問 12. ~ 14. 曲中の〔12〕～〔14〕に囲まれた音の種類を①～⑥より選び、番号で答えなさい。(重複可)

- ①倚音 ②補助(刺繍)音 ③先取音 ④掛留音 ⑤経過音 ⑥逸音

正解：(設問 12) ⑥逸音 (設問 13) ①倚音 (設問 14) ②補助(刺繍)音

[設問 9] クラリネット五重奏の通常の編成は、クラリネット、第1ヴァイオリン、第2ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロです。弦楽四重奏にクラリネットが加わると考えると良いでしょう。また、譜面のパートを見分けるには、ト音記号、ハ音記号、ヘ音記号といった音部記号が楽器と適合しているのかも参考となるでしょう。

[設問 12] (12)の1つ手前の音(実音ではC#)は和声音(構成音)で、(12)は刺繍的に2度上行しますが、もとに音に戻ることなく離れた音に下行しています。このように、先行する和声音のみに2度で隣接する非和声音のことを「逸音」と呼びます。

Ⅳ. (2) オルガンについて、次の文章が正しければ○、間違っていれば×で答えなさい。

設問 25. ミュージック・アトリエでは、Solo パートにサステインをかけることはできない。

正解：○

ミュージック・アトリエでは、サステインはアッパー、ロー、ペダル鍵盤にそれぞれ設定することができますが、ソロ・パートには設定す

ることができませんので覚えておきましょう。

■ ■ ■ ■ オルガン科 [R2] ■ ■ ■ ■

R2からは実際にアレンジを行なって楽譜を書く問題がより増えてきますので、まずはコードネームの理解と、それに基づいたアレンジ、ボーシングができるよう常に練習しておくことが必須です。また、オ

ーケストラのスコアに関する問題においては、移調楽器の楽譜も正確に読む必要があります。日頃からスコアに慣れておくことが大切でしょう。

I. これから、音楽を5曲流します。あてはまる言葉をそれぞれ①～④より1つずつ選び、番号で答えなさい。

設問2. ①古典派 ②ロマン派 ③印象派 ④バロック

正解：①古典派

会場で流れた曲は、モーツァルトの「交響曲第39番 第1楽章」でした。よって、正解は①古典派となります。古典派はリズムやハーモニーが簡明であることが大きな特徴と言えます。これに限らず、日頃からさ

まざまな時代様式の違いを意識して音楽を聴き、理解を深めておけば、具体的な曲名を知らなくても時代様式を推測できるようになるでしょう。

III. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Moderato
D₇⁽⁹⁾

(24) Em7 (25) A7

(29) (30) (31)

(26) Bm7 (27) (28) C#7⁽⁹⁾

(32) (33)

◎ (24)～(28)の空欄に適切なコード・ネームを書き入れなさい。テンションノートも表記すること。

正解：(設問24) B7(b9) (設問25) A7(#11), または A7(b9#11), A7(b5), A7(b5)(b9)
(設問26) F#m7 (設問27) Em7 (設問28) G#m7

設問24は、B音がコードのルートであることはすぐにはわかるとは思いますが、この和音には、ルートから長3度(D#)、短7度(A)、短9度(Cナチュラル)が含まれているので、「B7(b9)」と表記します。設問25は、まず、A7であることは理解できると思いますが、テンションの表記でミスをしてしまった方が多く見受けられました。和音中のD#の音

は、根音から数えて増11度(または増4度)になるので「A7(#11)」、もしくはメロディーも含めて考えると「A7(b9#11)」となります。そのほかに「A7(b5)」、メロディーも含めて考えると「A7(b5)(b9)」とも表記することができます。コードの判別では、構成音からだけでなく、コード進行としての前後関係も判断材料とすると良いでしょう。

■ ■ ■ ■ ピアノ科 [R4] ■ ■ ■ ■

R4の聴音問題では、R5よりも1声多い3声体となり、新たに内声の聴き取りが求められます。繰り返し練習するのはもちろんのこと、耳を鍛えるためにも普段からさまざまな音楽をよく聴き、主旋律以外のパートにも注意深く耳を傾けるようにしましょう。また、音

楽の一般知識問題に関しても、通り一遍の理解だけではなく、より深い内容まで把握しておく必要があります。例えば、「ロシア五人組」のようによく耳にするワードについては、メンバーの名前まできちんと覚えておくように日頃から心がけておきましょう。

I. これから、音楽を5曲流します。主旋律を演奏している楽器をそれぞれ①～③より1つずつ選び、番号で答えなさい。

設問4. ①シロフォン ②チェレスタ ③ヴィブラフォン

正解：②チェレスタ

音楽を聴いて主旋律を演奏している楽器名を答える問題です。例えば木管楽器と金管楽器など、種類の異なる楽器同士であれば、音色の違いが比較的はっきりしているため判別しやすいでしょう。しかし、ヴァイオリンとヴィオラなど同属楽器を聞き分けるには、それぞれの特徴をよく知っておく必要があります。ここでは、まず発音体が木製の

のシロフォンと、金属製のチェレスタ、ヴィブラフォンとを区別することができ、さらにチェレスタとヴィブラフォンでは楽器の構造や奏法に違いがあります。このように、さまざまな角度から楽器の特徴をよく理解しておきましょう。

Ⅲ. 次の楽譜を見て、問いに答えなさい。

Allegretto grazioso

曲中の〔10〕～〔13〕に囲まれた音の種類を①～⑤より選び、番号で答えなさい。

- 設問 10. ①経過音 ②倚音 ③刺繍音 ④逸音 ⑤和声音
 設問 11. ①経過音 ②倚音 ③刺繍音 ④逸音 ⑤和声音

- 設問 12. ①経過音 ②倚音 ③保続音 ④掛留音 ⑤和声音
 設問 13. ①経過音 ②倚音 ③保続音 ④掛留音 ⑤和声音

正解：(設問 10) ①経過音 (設問 11) ③刺繍音 (設問 12) ⑤和声音 (設問 13) ②倚音

非和声音や和音の種類を答える問題では、まず最初に和声音、非和声音のどちらであるかを判別すると良いでしょう。設問 13. の「ラ」が含まれる小節は、ミ、ソ#、シ、レの構成音からなる V7 ですから、この「ラ」は非和声音になります。次に非和声音の種類を判別しま

す。前後の流れを見ると、明らかに保続音、掛留音ではないことがわかるでしょう。また、経過音は主に弱拍で使われるものを指すため、これも選択肢から外れます。ここでは、強拍に置かれる非和声音、すなわち倚音が正解です。

設問 18. 曲中の〔18〕に囲まれた 4 つの音を並べ替えて出来る和音の種類を①～④より選び、番号で答えなさい。

- ①短七の和音 ②属七の和音 ③減七の和音 ④長七の和音

正解：②属七の和音

七の和音(セブンスコード)は、根音、第3音、第5音、第7音からなる四和音で、個々の音程の構成によっていくつかの種類があります。選択肢となった4つの和音については、下図を参照してください。コ

ードネームで表わすと、①短七の和音は「マイナー・セブンス」、②属七の和音は「セブンス」、③減七の和音は「ディミニッシュ・セブンス」、④長七の和音は「メジャー・セブンス」となります。

短七の和音	属七の和音	減七の和音	長七の和音

Ⅳ. (3)「 」内の言葉と関連ないものが、1つあります。その言葉をそれぞれ①～③より選び、番号で答えなさい。

設問 26. 「ロシア五人組」

- ①ムソルグスキー ②ボロディン ③チャイコフスキー

正解：③チャイコフスキー

「ロシア五人組」は、バラキレフ、キューイ、ムソルグスキー、ボロディン、リムスキー=コルサコフによって19世紀後半に結成され、伝統的な西洋音楽の潮流には乗らず、ロシアに根付いた民族主義的な音楽を強力に推し進めようとしてきました。選択肢のうち、③のチャイコフスキ

ーは「ロシア五人組」のメンバーと同世代ではあるものの、基本的には西洋の伝統的な手法を受け継いでおり、その作風は「ロシア五人組」と一線を画しています。

ピアノ科 [R3]

R5～R4ではすべてが選択問題や○×で答える問題でしたが、R3からは聴音が書き取りとなるほか、移調楽器の記譜を実音譜に書き記す問題や、1～2小節のモチーフの続きを作曲する問題など、実際に五線に記譜する問題が加わります。特に聴音問題では、音符が五線上のあいまいな位置に記されているなど、判別が困難なも

のがいくつか見受けられましたので、限られた時間の中においても見やすい譜面に仕上げるよう心がけてください。日頃から短時間で正確に記譜できるように訓練しておくようにしましょう。また、R3からは指導法に関する問題も記述形式となるため、ある程度の文章力も養っておくと良いでしょう。

設問 15. 弦楽器の楽譜に見られる、弱音器の使用中止を指示する用語を①～④より選び、番号で答えなさい。

- ① col legno ② senza sordino ③ tre corde ④ arco

正解：② senza sordino

イタリア語で、sordino (ソルディーノ) は弱音器 (ミュート)、“senza” (センツァ) は「～なしで」という意味です。よって“senza sordino”は、

「弱音器を使用しないで」という意味に訳されます。ちなみに、“senza sordino”の反対は“con sordino” (弱音器を付けて) となります。

IV. (3) 次の文章の中の□にあてはまる言葉をそれぞれ①～④より選び、番号で答えなさい。

設問 28. 抒情劇「ペレアスとメリザンド」を作曲した〔28〕は、フランスの作曲家である。

- ①ラヴェル ②ドビュッシー ③メンデルスゾーン ④グリーグ

正解：②ドビュッシー

設問 29. ワルツ「南国のバラ」を作曲したヨハン・シュトラウス 2 世は、〔29〕の作者としても有名である。

- ①ラデツキー行進曲 ②交響詩「英雄の生涯」 ③メリー・ウイドウ・ワルツ ④喜歌劇「こうもり」

正解：④喜歌劇「こうもり」

設問 28. 「ペレアスとメリザンド」は、ベルギーの劇作家、メーテルリンクによる戯曲で、フォーレ、ドビュッシー、シベリウス、シェーンベルクなど多くの作曲家が音楽の題材として取り上げており、中でもドビュッシーの「ペレアスとメリザンド」はドビュッシー唯一のオペラ作品として知られています。なお、設問の文章に“フランスの作曲家”と明記されていることにも注目しましょう。①ラヴェル、②ドビュッシーのどちらかに絞ることができ、正答を導く手助けとなります。

設問 29. ヨハン・シュトラウス 2 世は“ワルツ王”と呼ばれ、優れたワルツ作品が有名ですが、ワルツ以外にオペレッタ (喜歌劇) も数多く残しています。特に「こうもり」はたびたび上演される人気演目ですので、ぜひ覚えておきましょう。なお、①ラデツキー行進曲は“ワルツの父”と呼ばれるヨハン・シュトラウス 1 世、②交響詩「英雄の生涯」は、リヒャルト・シュトラウスの作品であり、③メリー・ウイドウ・ワルツは、レハールの人気オペレッタ「メリー・ウイドウ」で演奏される有名なワルツです。

ピアノ科 [R2]

R2の聴音問題では、和音聴取の代わりに2声の旋律聴取が出題されます。毎年の傾向ですが、この2声の旋律聴取の出来があまり良くないようです。中には、最初と最後の小節はきちんと書き取りができていてもかかわらず、途中の小節が空白となっている解答もいくつか見受けられました。限られた時間内に2つの声部を集中して書き取ることができるよう、日頃から採譜の訓練をしておきましょう。

また、R2の創作問題では、オーケストラ・スコアをもとに、その

一部である数小節をピアノ・ソロにアレンジする問題が出題されます。ここでは、曲の雰囲気や的確に捉えるだけでなく、ピアノで演奏する際の適切な音域を考慮しながら仕上げることもポイントとなるでしょう。また、もとの譜面に書かれたテヌートやスタッカートなどの演奏記号、フレージングを表わすスラーや、クレッシェンドなどのダイナミクス記号、また *espress.* などの表情記号は、曲の性格を決定づける要素となっている場合もあります。これらも重要なヒントとして見落とさないようにしましょう。

III. 別紙のオーケストラ曲の楽譜を見て、次の問いに答えなさい。

○曲中の〔12〕～〔14〕に囲まれた部分にあてはまるコードネームをそれぞれ①～⑧より選び、番号で答えなさい。

- ① F7 ② Fmaj7 ③ F#dim7 ④ G7 ⑤ Ddim ⑥ Dm7 ⑦ Am6 ⑧ Am7

正解：(設問 12) ⑥ Dm7 (設問 13) ⑦ Am6 (設問 14) ② Fmaj7

オーケストラ・スコアを見て特定箇所のコードネームを答える問題です。設問 13. では、③ F#dim7 を選択して不正解となった解答が多く見られました。F#dim7 の構成音は F#、A、C、E♭ で、⑦ Am6 の

構成音は A、C、E、F# と互いに似ていますが、E 音と E♭ 音の違いに注意しましょう。ちなみに、選択肢にはありませんが F#m7 (b5) は転回形にすると Am6 と同じ構成音となります。

○この曲で使われる楽器は楽譜の左端に書かれていますが、空欄が4つあります。〔23〕～〔26〕にあてはまる楽器名を①～⑫より選び、番号で答えなさい。

- ①チューバ ②トロンボーン ③ヴィオラ ④チェロ ⑤ヴァイオリン ⑥トランペット
⑦ホルン ⑧コントラバス ⑨オーボエ ⑩クラリネット ⑪チェレスタ ⑫ファゴット

正解：(設問 23) ⑩クラリネット (設問 24) ⑥トランペット (設問 25) ①チューバ (設問 26) ③ヴィオラ

オーケストラ・スコアの空欄となっている楽器名を答える問題です。通常、オーケストラ・スコアでは、木管楽器群、金管楽器群、打楽器群、弦楽器群の順に表記されるため、(24)、(25) は、その配置位置から金管楽器であると推測できます。そこで、金管楽器のセクションに配置されたほかの楽器を見ていくと、「Corni」=ホルン (Corno) の複数形、「Tromboni」=トロンボーン (Trombone) の複数形であ

ることから、この2つの楽器は選択肢から外れます。残る選択肢のうち、金管楽器は①チューバと⑥トランペットのみとなり、音域から判断すると (24) のパートはトランペットであることがわかるでしょう。ちなみに、ここでの楽器名はイタリア語の表記となっていますが、ドイツ語、フランス語、英語など各国語の楽器名についても覚えておくとう良いでしょう。

Sehr mässig bewegt -molto moderato-

Piccolo e Flauti I.II

Oboi I.II
a 2
f molto tenuto

(23) *f molto tenuto*

Fagotti I.II
a 2
f molto tenuto

I. II
Corni in F
f molto tenuto

III. IV
f molto tenuto

(24) *f*

Tenore I.II
f molto tenuto

Tromboni

Basso
f molto tenuto

(25) *f molto tenuto*
tr

Timpani
f

Violino I
f
Sehr mässig bewegt -molto moderato-
molto vigoroso

Violino II
f
molto vigoroso

(26) *f*
molto vigoroso

Violoncello
f molto vigoroso

Contrabasso
f

